



【2016-11-23】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『身近な七福神めぐり』

長野修二

身近な七福神めぐり

[七福神](#)めぐりは、お正月の行事になっているようですが、私は人が少ない秋や2月、3月上旬ごろの暖かい日の散歩コースのひとつにしています。

理由は、ゆっくりとまわりの景色を楽しみながら散歩ができるからです。

もっとも、「[七福神の由来](#)」はあまり詳しく知りませんでしたが、この地では散歩に手ごろなコースでしょうか。

この地も積極的に「[七福神めぐり](#)」を紹介していますが、実際にまわってみると少しがっかりすることもありそうです。

とくに遠方から来られる方は、1月1日から10日のみの御開扉のところもありますからこの期間以外に訪れる際には、七福神めぐりだけでなく他のみどころも検討しておいたほうがよいでしょう。

地元にいれば、いつでも散歩がてら出かけられ、途中で好きなそばを食して3時間から4時間の散策ができます。

偶然住んだこの地ですが、時の経過とともに地元のよさもわかってきます。

関東のよいところのひとつに身近に神社やお寺が結構あることでしょうか。

この地も多くの神社とお寺があり、秋の暖かな日差しの中、七福神巡りとお参りをしてきました。

それぞれの境内にある木々も色づきはじめており、晩秋の季節を感じる一日でした。お正月と違いゆっくりとお参りすることができましたが、神社だけは七五三で大混雑でした。

道中には蕎麦屋があり、この時期はゆったりとそばをすすることができます。

身近なところで自然を感じながら、秋の一日を歩いてみるのも楽しいものです。

最初に訪れるお寺は、「大聖院（妙隆寺）」で大聖院大黒天と布袋尊を拝礼します。このお寺は比較的大きな墓所を有しており、墓所のまわりの木々もみどころでしょうか。





また、近くに「武家屋敷」や「ひよどり坂」があり、江戸時代とほとんど変わらない竹林に囲まれた風景がみられます。

なかなか急峻な坂道が続き、まるで時代劇をみるかのようなところでしょうか。



次にまわるところは、「麻賀多神社」で「福祿寿」と「恵比寿（須）」を拝礼しながら境内の大イチョウを眺めることになります。

境内は広くありませんからすぐにまわれるでしょう。

この地は「麻賀多神社」が多く存在しますが、旧佐倉藩の総鎮守で、古くから「まかたさま」とこの地方の人々に親しまれ、崇敬されてきたお社だそうです。

麻賀多神社という神社は、佐倉市内に11社・隣接する酒々井町2社、成田市2社、富里市2社、八千代市1社ほどあるようですから、これから散策がてら歴史をみていきたいと思います。

この日は「七五三」で狭い境内は人であふれていましたので早々に社を後にして向かいで催されていた「菊」の展覧会をみることになりました。



その後、途中でそばを食して「嶺南寺」の「弁財天」を拝礼し、その前にある「宗圓寺」の「寿老人」を拝礼することになります。



次は、堀田公の菩提寺でもある「甚大寺」の「毘沙門天」に拝礼します。
このお寺、寺の説明書きによると堀田正亮(まさすけ)が山形から佐倉へ入封した際に山形から移管されたようです。
山形が本家である妻には多少の縁とゆかりがあるのかもわかりません。



次の「松林寺」は「毘沙門天」を拝礼しますが、御開扉はしていませんので「御朱印」だけいただくことになるでしょう。

最後は、「妙隆寺」の「大黒天」を拝礼します。

このお寺の境内は広く、山門や本堂はなかなか見ごたえがあります。

また、境内に植えてある樹齢250年のイチヨウやお寺が建つ前からある高山樺はひととき目立つ存在でしょうか。

新しく整備された墓所にはもみじが植えてあり、見事な紅葉がみられました。



この地に限らず身近なところに多くの寺社仏閣があるのが日本の良いところです。

そのまわりには自然が残っているところも多く、散歩がてらまわりの風景をみわたしながら、そばやうどんでも食べながら、ゆっくりと歩いてみてはいかがでしょうか。

毎回、新たな気づきがあるでしょう。

